

平成 31 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 20	公益目的事業 19
主査名	寺田一薫 東京海洋大学海洋工学部教授	
研究テーマ	技術と経済構造の変化に対応した新しいバス運営のあり方に関する研究	
研究の目的： 現在、バス運行は、特定の営業所に車両、運転士、運行管理者を所属させ、これら 3 者を完全に対応させる形で規制されている。しかしこの仕組みの固定化は、効率的な運行の妨げになっている可能性がある。運転士、運行管理者不足が深刻になっていることから、研究では、乗合バス、高速バス、貸切バスを含め、人口減少、高齢化、外国人観光客増に対応できる新たな運行システムのあり方を検討した。そして、自動運転バスの普及等を踏まえ、解決策の選択肢提示を行うことを目指した。		
研究の経過（4 月～3 月）： 第 1 回(令和元年 9 月 2 日)、第 2 回(令和 2 年 2 月 21 日)、第 3 回(同年 3 月 17 日)の 3 回の研究会を開催し、メンバーの研究成果の報告、討議を行った。第 1 回研究会では、運行管理と運行管理者制度の課題・改革動向、政府の働き方改革と自動車運転者の労働時間短縮の制度枠組み・実施スケジュール等について、国際比較を含めた予備的検討を行った。第 2 回研究会では、自動運転に対するバス会社受け止めや経営的態度、鳥取、島根、広島 3 県における遠隔点呼、グリーンスローモビリティを含むバス自動運転の動向、英国のバスにおける運用者免許等運行管理制度について情報交換を行った。第 3 回研究会では、地域公共交通活性化再生制度改革、ならびに自動車運転者の労働・運転時間改革(とくに総拘束時間・休息期間・昼休(中抜け)等変更)の実現可能性や効果に関する論点整理を行った。		
研究の成果（自己評価含む）： 運転者の労働・運転時間短縮については、その問題点や実行可能な範囲について一定の整理を行った。その一方で、既往の調査・研究が極めて少ない運行管理者制度に関しては、その複雑な実態について整理できたものの、政策的課題や改革の方向性を十分明らかにするには至らなかった。自動運転に対する中小を含むバス会社の受け止めについては、極めて慎重であることの確認ができた。		
今後の課題： 運転者労働時間短縮、運行管理者問題は、バスのみならず、タクシー、トラックに共通する課題であり、かつ 3 モードそれぞれに他のモードに参考になる事例やイノベーションがある。とくにトラックについてバスに参考になる事例が多いこと、またバスとタクシーの中間モード・貨客混載の展開もあることから、3 モードを総合する形で、運転のみならず運行管理を含む調査・研究を行う必要がある。		